

発行所 (郵便番号100)

東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所

Tel (212) 4007・1447

編集
責任者

印刷所 関東図書株式会社
定価200円 (年間購読料参千円)

1979年1月25日発行

第11巻 第1号

(毎月1回25日発行)

昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.11 No. 1

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan



所長退任のごあいさつ

Message of former President

理事 西村 光 夫

Prof. Teruo Nishimura

歳月の過ぎる速さは、年齢とともに加わるよう
であります。1967年(昭和42年)夏スウェーデン
社会研究所設立について大体の準備が整い、8月
末に発起人を中心に会合が催されましたときに、
私は図らずも所長就任を仰せつかりました。次い
で同年10月スウェーデンからクリスティナ王女を
迎えて創立総会を催す運びとなりました。爾来今
日に至るまで10有余年が矢のように過ぎ去りまし
た。しかし、いまこの間を思い返しますと、流石
に感慨深いものがあるのであります。幸い研究所
が大過なく発展の歩みを続け、1977年(昭和52年)
には盛大に10周年を祝うことが出来ましたのはま
ことに嬉しいことでありました。

その10周年の祝の席でも申したことでありますが、
この研究所が10年前に設立されたということは非
常に時宜を得た企画であったと申すことが出来
ると思うのであります。と申すのは、その頃以
後社会福祉ないし、福祉国家建設の問題に対する
社会の関心が嵩まってきて、いまや政府におい
ても、厚生省が各省中最高の予算を占めるに至
り、この問題の重要性は年々急速に増大しつつ
あるからであります。この秋に当って、福祉国
家の先覚となり、新しい社会の建設に見事に成
果を挙げたスウェーデンの経験や現在抱えてい
る諸問題点を研究することの意義はまことに大
きいといつて過言ではないと思ひます。

従って研究所は創立以来、したいと思うこと、
しなければならぬと思うことに追いつけられて参

りました。しかし実際のこととなりますと、な
かなか思う程には参らず、日々焦慮の感に追
われ、私の微力を申し訳なく思ふばかりで
あります。

しかしともかく皆様のお蔭をもって無事創
設期の10年を終り、ここに私のもつとも尊
敬する新所長をお迎えすることが出来、次
の輝しい10年を期待することを得ますこ
とは、まことに有難いこと
であります。

皆様におかれては新所長の下に新出発を
致します研究所に対し、倍旧の御厚情と御
支援を賜りますよう御願ひ申し上げます。
また創立以来スウェーデン王室をはじ
め内外各方面より給わた御厚志、御鞭
達に対しては到底筆紙に尽くせぬもの
があります。

茲に心よりの感謝を申し述べるととも
に、今後とも変らぬ御交誼を賜ります
よう御願ひ申し上げます。

目 次

- 所長退任のごあいさつ……………西村 光 夫…1
- 所長就任のごあいさつ……………平 田 富太郎…2
- 年金基礎額の改訂……………2
- 所長更迭歓送迎パーティースナップ……………3
- アストリッド・リンドグレン児童文学の背景
……………小野寺百合子…4
- 福祉に関するスウェーデンの新聞記事抜萃……………6



所長就任のごあいさつ

Message of President

所長 平田 富太郎

President Tomitaro Hirata

所長就任に当りまして一言ご挨拶申し上げます。このたび会長、理事はじめ役員皆様のご要望によりまして、不肖私が前所長西村光夫先生のあとを継ぐことになりましたが、その責任の重大さを今さらのごとく痛感しているところです。

ご承知のとおり、当研究所はスウェーデン社会に関する科学的研究を推進するとともに、わが国とスウェーデン両国間の相互理解を促進することを目的として、昭和42年秋、国際文化会館で産声をあげてから西村所長はじめ関係各位の熱心なご努力によりまして堅実に発展して参りまして、10年一節といいますが、一昨秋創立10周年を迎え、ここに一応その後の進展の基礎固めが行われましたことは寔にご同慶のいたりに存じます。

しかし研究所定款に掲げられております刊行物の発行、研究会・講演会の開催、スウェーデン語の講習、図書館の開設などの多岐にわたる諸事業のそれぞれについての一層の整備、充実は各方面から期待されているようでありますので、今後の研究所の活動もなにかと大変であるような気がしてなりません。

いうまでもなく、スウェーデンとわが国では国の歴史や伝統、宗教、人口条件および生活慣習などいろいろの相異点があります。しかし議会制君主国である点や先進工業国としての高度の技術を有する点およびまったくの石油輸入国である点などのかなり共通した点も見受けられます。そして

平和と文化を愛好するスウェーデンは福祉と生活の質の点では世界でもっとも水準の高い国であると評価されております。公共投資による産業基盤の整備、住環境、医療施設の整備、上下水道の普及など活力ある福祉社会の建設にたえずつとめている点は、国際社会においても注目せらるべき国であると思われまます。私はわが国とスウェーデンの両国間に学術、文化、経済、生産技術および情報などのいろいろな面での交流を促進することは、これからのわが国の進むべき途を見出す上においてもきわめて意義深いものがあると考えまして、今回所長の大役をお引き受けすることにいたしました。もとより、浅学非力であり、しかも他に本職をもつ身でありますので、果してこの重責の負荷にどれだけ堪え得ることができるのかについては自信とてございません。皆さま方のご教導、ご鞭撻によりましてできるだけ努力はいたすつもりでありますので、何卒よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

これまで当研究所は歴代のスウェーデン大使閣下はじめ大使館員の方々ならびに法人会員や個人会員の各位の物心両面の暖かいご厚意とご支援によって、今日まで存続し得たわけでありますので、これら関係者の皆さまに厚く感謝申し上げますと共に、今後の当研究所の活動と発展のために一属のご好誼とご鞭撻とを賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

在スウェーデン日本大使館通報

年金基礎額の改訂

国民年金額を算出する基本になる基礎額(basbeloppet)が、1979年1月より13.100クローナに改訂された。この前は1978年4月であったから、9ヶ月ぶりの改訂であって、スウェーデンの消費者物価上昇が減速したことを示す。

此の度の改訂によって国民年金は、年金補足割増(pensionstillskott)を含むと

単身者	月	1,397クローナ	
夫婦	"	2,413	"
早期単身(身障者)	"	1,758	"

となる。

なお基礎額の改訂は、消費者物価が3%上昇すると、次の月に基礎額改訂が決定され、その翌月に実施される。

所長更迭歓送迎パーティー・スナック

標記の歓送迎パーティーは、去る2月5日夜、霞が関ビルの東海倶楽部望星の間で、松前会長主催により開かれました。

スウェーデン大使夫妻、ガデリウス・ゴロー会長ほか約60名のご出席があり、盛況裡に終始しました。



松前会長あいさつ



ウーデヴァル スウェーデン大使閣下ごあいさつ



大使ご夫妻、フリッツオン参事官ご夫妻と西村・平田両先生



ガデリウス・ゴロー会長ごあいさつ



西村、平田両先生



小野寺顧問の乾杯の辞

アストリッド・リンドグレン児童文学 の背景

Back ground of Astrid Lindgren's
juvenile literature

理事 小野 寺 百合子
Director, Yuriko Onodera

アストリッド・リンドグレンは「長靴下のピッピ」その他で、日本の子供たちにも親しまれているスウェーデンの児童文学作家である。「ピッピ」は1944年にはじめて発表されたが、たちまち20数ヶ国語に訳されて、彼女を一躍世界的に有名にした。彼女の作品は、日本でもピッピシリーズをはじめ、約20冊が日本語に訳され出版されている。リンドグレンの児童文学は、現実的な生活描写の巧みさと、読者を現実から空想の世界へ導く魅力とで、現代児童文学の最高峯の一つに数えられている。

ところが、わたくしは彼女の文学から興味を覚える点がもう一つある。それは彼女の作品の一半が、スウェーデンの農業社会を背景にしていることである。しかも、その時代が、スウェーデンが農業社会から工業社会へ移行する産業革命の進行中で、それに先だつ農業社会自体の転換期も舞台になっていることである。

アストリッド・リンドグレンは1907年、南スウェーデン、スモーランドの小地主の家に4人兄弟の長女として生れた。有能なる百姓であった父親と、やさしい働き者の母親に育てられた彼女の少女時代は、幸福そのものであったらしく、彼女の農村生活への限りない愛情は、その作品の底を脈々と流れている。彼女は恵まれた両親をもったおかげで、この時代のスウェーデンの農村生活の、よい面を満喫して育ったのであった。一家を挙げての労働はきびしく、生活は裕福ではなかったけれども、召使を含めての家庭は温かく楽しく、コミュニティの中の相互扶助は自然に行われていた。

リンドグレンの父親は1969年に94歳で死亡したのだが、物覚えのよい人で、前世紀末頃から今世紀へかけての昔話を彼女に話して聞かせるのが好きだったという。彼女の農村を背景にした作品集

は、当時の農民生活の記録といえることができる。たとえば、

1. 桜桃酒をつくった粕の桜桃を食べて、男の子と豚が酔っぱらってしまい、地区禁酒会から呼び出しを受けて、生涯の禁酒を誓わせられる話。
2. 隣の地主が一家を挙げてアメリカへ移住するために、家具から家畜まで一切を競売にする話。
3. 少年が「貧民の家」へ毎日通って、老人たちに新聞を読んでやる。その女主人は欲ばりで老人たちを厳しく取締り、自分だけはこつそりおいしいものを食べる話。（「貧民の家」が今日の老人ホームの原型である）
4. 地主の家は年に1回、家を開放し、近所の人々にご馳走をする。「貧民の家」の老人たちが大喜びする話。
5. 下男が破傷風になって死にそうになるのを、少年が家族に黙って櫓にのせ、雪道を難儀しながら町の医者へ運ぶ話。

これらが実にユーモラスに生き生きと書かれているが、素材はみな父親から聞いた実話だということである。

しかし、当時のスウェーデン農業社会には、すでに、きびしい転換期が兆しはじめ、リンドグレンが経験したような幸福な農業ばかりではなかった。それは農業機械の導入と、農業の商業市場化時代の招来によって、それまでのような小規模の自給自足農業が成り立たなくなってきた。隣接の農場を買収して大規模経営を始めるものと、自分の農場を売却して、小作農に落ちたり、アメリカに夢を托して移住したり、新しく興った工業に転ずるものと分れる結果となった。リンドグレンの両親が、幸にも前者であったことは、リンドグレン文学が生まれたもとになったわけである。

スウェーデンは19世紀のはじめまでは、純然たる農業国であったが、ヨーロッパの諸国のような封建制度ではなく、農民はかなり自由で、相当の権利をもち、農民代表は国民議会にも参画した。農民の大部分は小地主で小数の下男下女を使っていたが、彼らは全く農奴的なものではなく、老後や病気に対しても主人から保障されていた。同じ時代のヨーロッパ諸国の農家に比べて、全体としては貧乏で原始的であったが、それなりに安定していた。19世紀にはいつから、農業機械が開発され、それが普及するにつれて前述のような変化が起きてきたのである。地主の数の減少と機械による農業労働力需要の減少が原因となって、農業労働者は工業都市へ流れていかざるを得なくなった。ちょうどその頃は、おそまきながらスウェーデンも産業革命が始まっており、工業労働力の需要は高まっていたから彼らを吸収することはできた。しかし、その頃の工場労働者の賃金は低く、一家の世帯主の稼ぎだけでは家計が成り立たず、妻も幼少な子供まで劣悪な労働条件で働かざるを得なかった。(婦人子供の労働に対して敢然と立上って闘ったのがエレン・ケイである)。その上、当時の工場労働者にとっての大きな不安は、病気や老後の保障が何もないことであった。彼らは伝統的に地主の保護に慣れていたのである。このような悲惨な工場労働者になるのを嫌って、この時代にはおびたしい数々がアメリカへ移住している。移住は1840年代に始まり、1887~88年をピークとし、1930年代までに約100万といわれている。

リンドグレンが画く世界と、エレン・ケイが画く世界とは、同じスウェーデンの、ほぼ同じ時代にたしかに存在した二面である。

リンドグレンの最近の作品に、彼女の両親の恋愛物語がある。これも父親から聞いた話だが実話であって、童話に描かれているのよりも一時代さかのぼる。両親の初の出会いは、1888年、教区集会所で教区内の子供たちのために開かれていた学校であった。13歳の少年と8歳の少女がストーブ近くの席に隣合って坐ったときのことである。6年の義務教育法が施行されたのは1883年であるから、これがすでに法的な学校であったことになる。こういう形式で学年の別はなく、一日おきに子供を集め、教科書などなく、口授と暗誦だけの授業が6年間つづいたと書いてある。

農家では子供がたくさんあれば、学校を終える頃には男の子も女の子も、他家の下男下女に出されるのが普通であった。リンドグレンの父親も18歳で伯父の家の作男となって、年給60クローナで、来る日も来る日も単調な畑仕事をするようになった。そのうちにも一学期だけ国民高等学校へやってもらえた。それが彼の教科書による勉強のすべてであったという。そこへ降って湧いたように、この少年の実家が、一家を挙げて教区の牧師館の小作人になるという話がもち上った。作男にとって小作人になるということは、自分の土地で自分のために働けるわけだから、この少年がどんなに嬉んだか、リンドグレンの筆は大変面白く表現している。牛車2台に家財道具全部を積んで、親子5人が牧師館の小作人住宅に引越していったとき、父親は20歳になっていた。

一方、母親の父は教会事務長を勤める裕福な百姓であったし、母は村中の出産を1人で引受ける上手な産婆であった。それでも娘の教育といえば、別の村の機織師のところへ機織修業にやられたり、退役軍人の家へ行儀見習いに出されたりしたほかは、家では家事を受持ち、教会やいろいろの組合の集会の手伝いなどにまめまめしく立働いただけであった。父親と母親の家庭の身分はかなり違っていたが、2人の恋を育てる障害にはならなかった。その頃その村にも、はいってきた農業機械のことが、いかにも珍らしそうに語られている。2人は1905年に、30歳と26歳で結婚し、親の跡を継いで牧師館の小作人として、結婚生活をスタートした。2人の誠実な性格とたゆまない労働にプラスして、父親の事業的才能が彼らを農業成功者にし、その地方の農業指導者にしたのである。

両親の相愛時代に取交わした手紙が箱いっぱい蔵ってあったのを、リンドグレンは当時の農村青年男女の恋文のサンプルと言っているが、一日おきに6年間という教育だけの人たちが書いた文章とは、到底考えられない立派なものであると評している。たまたまエレン・ケイが、『児童の世紀』の中で、学校の無かった時代に育った老婦人たちが、自分ひとりで積み上げた教養の高さを論じているが、リンドグレンのこの話と符合するものがあるのが面白い。

福祉に関するスウェーデンの新聞記事抜萃

本稿は、NHK国際局の松岡幹雄氏のご好意で昨年当研究所に寄せられた福祉に関するスウェーデンの新聞の記事の見出しならびに記事の抜萃ですが、ご参考までに掲載します。なお記事のコピーは当研究所に保管してありますので、ご入用の方はご連絡下さい。

- 4月5日付・国民の「医療費負担増加は、需要側、供給側の両者に、コスト意識の改善をもたらす」—国民経済学者の提言
- 4月9日付・子供にはどちらがよいか—託児所それとも自宅か……DN紙の調査
- 4月11日付・精油所の周辺に、ガンや奇型児発生の危険—エーテボリとブーヒュスでの調査報告
- 4月13日付・成人麻薬中毒患者の強制治療と人民党（与党の一つ）の態度
- 4月14日付・BCGワクチン被害児（47名）の損害補償解決
- 4月20日付・公共の場所での喫煙は法律で禁止を一厚相へのタバコ委員会提案
- 4月24日付・社説「煙から解放される権利」
- 4月25日付・身体障害者に不便な学校施設—ストックホルムで開かれた国際会議から
- 4月26日付・スウェーデン国民は、昨年30億クローネの薬を買い、その10分の1を捨てた。
- 5月2日付・不況に悩む産業界にあって、自信に満ちたアストラ社の経営者のインタビュー
- 5月7日付・153人生まれたスウェーデンのサリドマイド障害児の一人ピアさん（16才）に焦点をあて、問題を考える。
- 5月8日付・「厚生局の医薬部を解体し、独自の独立した医薬庁を設立する」
「社会が繁栄する医薬品市場をより良く監督できるよう法律を改正する」
—一国の「医薬品監督調査委員会」の提案
- 5月9日付・空前のヒットをした精神安定剤 Valium と Librium のメーカー Hoffman-La Roche（スイス）を訪ねて。
- 6月7日付・新たな薬害裁判—スルファ剤で重大被害「スウェーデンの製薬会社 Astra は新たな損害賠償裁判を受ける。同社の Sulfapral を使用した被害者は重大な副作用に対し、Astra に責任ありとしている。但し事故件数は総消費量に比し低い」
- 6月8日付・DN紙が5月に連載した「薬と製薬会社」シリーズに対し読者より多数の手紙が寄せられた。多くはDNがこれらの問題に取り組んだことに感謝するものである。他の手紙は批判的で、シリーズは「恐怖プロパガンダ」であったと云っている。大多数の手紙は薬害をこうむったかその疑いのある人々からであった。
- 6月13日付・短期病欠欠勤の際、健康保険事務所からの補償給付の代りに、雇主から「病休手当（仮称）」という制度を検討するため、政府は諮問委員会を委嘱。
- 6月13日付・ガン研究に2,470万クローネ。労働環境とガンの関係に焦点。
- 6月16日付・服薬は運転に危険。服薬したドライバーは交通事故またはその危険の2件に1件の割合で関係している。
- 7月8日付・「薬は高いか？」……薬は高いか？ 調査を命ぜられたり、製薬業界に対し規制強化を求める声がかり返しあらわれるのは、薬が医療にとって経済的な問題であること、そして利益や情報の規制を厳しくすることに社会経済的、または「医療経済的」利益があることにもとづいている。これはどの程度直実であるか……
- 9月5日付・「始まった安楽死裁判」……重病のジャーナリストのハンドベリ氏の求めに応じて注射で死に至らした作家ヘデビ女史とそれを助けた医師トス氏の裁判が9月4日始まった。ヘデビ女史は殺人、トス氏はその幫助で起訴されている。弁護側は、被告は自殺に協力することは犯罪にならないと確信した故無罪であると主張している。
- ヘデビ女史は、「我々の死ぬ権利」という行動グループで、これの法制化を要求している。
- 9月6日付・「スウェーデンに16人のスモン患者」……スウェーデンに子どもを含む少くとも16人のスモン患者がおり、正しい診断をなされぬまま苦しんでいる。日本のスモン裁判でも証人になったウッレ・ハンソン助教授のレポートから転載する。
- 患者はいずれもオキキノリン (Oxikinolin) を含む胃腸薬を服用し、麻痺、ひどい疼痛、視力の激しい低下に悩んでいる。
- 10月5日付・看護婦、物理療法士、作業療法士などの養成に関する国の答申「care77」に対する反応。養成期間を短縮する案にカロリンスカ病院の討論会では、物理療法士コースの生徒が現在の形での「care77」に反対を表明した。
- 10月9日付・医療（施設）内の階層（ランク）を打ち破れ—ストックホルム大学教授陣による病院の心理学的労働環境に関する研究プロジェクトから。
- 医療にたずさわる者は、自分の労働に幸福を感じていない。ピラミットの頂上にいる医師も、底辺にいる見習看護婦も無力感と不足感を持っている。
- 11月20日付・①Text, TVに2チャンネル
5年後には、Text, TVがテレビ受像機のスタンダードになる。
- 来年の春、数千の装置が販売される。その際、180人の聾者が実験放送に参加する。
- 聴覚障害者と移民にとって、Text, TVはテレビ番組を完全に利用できることを意味する……
- ② Text, Telefon
スウェーデンは聾者のための Text, Telefon を持つ世界最初の国になる。来年7月1日から装置の配布を始め、1982年までに需要は完全に満たされる。通常の電話機で通話できない者をもつ家庭は、Text, Telefon を一台持つことになる（国庫負担）。
- ③ 動物実験をへらす新しい法律
スウェーデンでは、将来科学実験に動物が使われることが、ますます稀になるだろう。これには11月22日国会で採決される管の新しい法律が貢献する。
- 11月 日付・「食品における鉛害」
(1) 食品における鉛含有量の新規標準（79年3月1日より）—厚生省に対する食品局案
(2) (1)に関連、大きな葉の野菜は、交通量の激しい道路から25m以内で栽培することができなくなる。
- 11月22日付・「アルコールにない妊娠」（社説）
妊娠中の飲酒の母体及び胎児に対する研究調査がまともなり、来年早々「妊娠中の乱用（アルコールと麻薬に関するもののみ）」についての指示が母子健康管理のために用意される。
- 11月29日付・「社会福祉（援助）を受けている人たちは、今日10年前と同じ程度に貧しい。彼らにとって状況は改善されていない」とストックホルムの社会福祉員シーヴ・リンドは言う。
- しかし彼女自身の仕事は変わった。一人でする仕事から共同でする仕事へと発展したのだ。